

都市再生整備計画(第6回変更)

桑名駅周辺地区

三重県 桑名市

令和2年10月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input type="checkbox"/>

目標及び計画期間

様式(1)-②

都道府県名	三重県	市町村名	桑名市	地区名	桑名駅周辺地区	面積	9.7 ha
-------	-----	------	-----	-----	---------	----	--------

計画期間	平成 28 年度 ~ 令和 3 年度	交付期間	平成 28 年度 ~ 令和 3 年度
------	--------------------	------	--------------------

目標

- ・歩いて暮らせるコンパクトで便利なまちづくりを育む
- 交通結節点の整備を進め東西地区の交流を図る
- 公共施設等を再配置し、快適なまちづくりを図る

目標設定の根拠

都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の方針を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

本市は、日本の東西・南北を結ぶ交通・物流の要所にあり、日本のものづくりに中核で経済力を持つ愛知県・名古屋市と三重県をつなぐ結節点でもあります。東海環状自動車道西回りの整備、新名神高速道路の亀山以北の整備が進みつつあり、その優位性は一層高まると期待されます。また、将来的にリニア中央新幹線が整備されると、東京から桑名の移動距離が1時間程になると想定されます。地理的優位性を活かすために、都市構造としての環境整備をおこないつつ、広域道路網へのアクセス向上および公共交通の活用といった地域交通の円滑化を図り、観光、交通資源の連携、中心市街地の魅力向上に取り組んでいきます。現状、桑名駅周辺において鉄道による東西の分断化により、地域の交流が妨げられています。また、中心市街地において、急速に進む高齢化社会に対し、歩いて暮らせるまちづくりが求められています。このため、桑名市の玄関口である桑名駅周辺の都市基盤や交通結節点としての整備を進め、都市機能施設の再構築により持続可能な都市を目指しています。

まちづくりの経緯及び現況

■桑名市について

・桑名市は鉄道・高速道路網等による広域アクセス性に優れた名古屋大都市圏の隣接都市で、平成16年の1市2町(桑名市・多度町・長島町)の合併により、人口約14万人の都市となった。
 ・桑名市の中心市街地は、旧桑名城の城下町を中心として形成されており、桑名駅の東側に位置している。また、市域の南北を通過するJR関西本線及び近鉄名古屋線の桑名駅の西側については、名古屋圏のベットタウンとして昭和の時代から大規模開発により新市街地が形成されてきた。

■全国都市再生モデル調査及び桑名歴史公園地区都市再生整備計画事業(H18年度～H22年度)

・全国都市再生モデル調査「桑名交流都市創生計画調査」(H16. 3)では、中心市街地を中心に「観光・交流・防災」の観点からまちづくりを行うものとし、「歴史公園都市創生」の実現に向けた中期的戦略を立案した上、桑名歴史公園地区都市再生整備計画事業を実施し、「観光・交流都市づくり」を目標に市民会館整備(リニューアル・耐震・バリアフリー等)はまぐりプラザ(漁業観光学習交流センター)整備等を行い「観光・交流」の観点での事業成果が得られた。

■桑名地区都市再生整備計画事業(H23年度～27年度)

・先の桑名歴史公園地区において「観光・交流」の観点での集客等の事業成果が得られたことにより、予測されている東南海・南海地震といった巨大地震の発生に伴う被害が危惧されることから、桑名歴史公園地区の一部を含め海岸河川沿岸の地域を含めた桑名地区都市再生整備計画事業により、市民や観光客の「安全・安心」を確保するために城南地区水防センター整備・指定避難施設改良事業等の防災の観点によるまちづくりを進め、成果を得てきた。

■桑名駅周辺地区の状況

・現在、桑名駅の西側において、市域西部の大規模新市街地及び西側近隣市町(いなべ市・東員町)への玄関口として、桑名駅西土地区画整理事業(H13～)を事業進捗中である。
 ・ターミナル機能を保持した桑名駅周辺について、当市の玄関口としての交通結節機能の強化とともに市域東西の新旧市街地間の交流が求められている。
 ・高齢化が進む中、街なか居住を進めるとともに都市機能の集積を行い、「歩いて暮らせるまちづくり」が求められている。

課題

桑名駅周辺の混雑を減らし、利便性の向上を図るとともに桑名駅周辺の機能強化、魅力づくりが必要である。
 ・高齢化社会に対応し、歩いて暮らせるまちづくりを進めるためには、桑名駅を中心としたコンパクトなまちづくりの再編が必要である。
 ・街なか居住を推進することにより、人口の流入と定住化を促進することが必要である。

将来ビジョン(中長期)

【桑名市総合計画】

・桑名地区の玄関口である桑名駅周辺では、都市基盤や交通結節点としての整備を進めます。また、都市機能の再構築による持続可能な都市を目指します。

【桑名市都市計画マスタープラン】

・都市施設が集積する中心市街地の利便性を有効に活用し、高齢者や子育て世帯が歩ける範囲で様々な都市サービスを受けながら快適に暮らすことができるよう住宅の建替え・整備や都市施設の機能更新を進めるなど、便利でコンパクトな市街地の再生を推進します。
 ・市の玄関口にふさわしい景観形成や快適でうるおいのある都市空間を形成するとともに、利便性の高い市民生活を支える各種生活サービス機能の整備を進めます。

都市構造再編集支援事業の計画 ※都市構造再編集支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。

都市機能配置の考え方

郊外部については、名古屋圏のベットタウンとして大山田地区を中心に生活圏を形成しており、病院や商業施設が整備されているとともに、幹線道路の利便性を活かした都市機能の整備が進んでいる。
 中心市街地は、JR桑名駅と近鉄桑名駅を中心に、公共交通の結節機能が充実しており、市役所、図書館、市民会館ホール等の公共公益機能をもとより有しているところであるので、新総合病院の整備及び桑名市の玄関口にふさわしいにぎわいのある駅周辺の環境づくりを図る。
 その他多度、長島地区等については、本市全体でみられる高齢化の傾向が顕著な地域であるため、日常生活を支えるサービス機能、地域コミュニティの維持・増進機能等の整備を図るとともに、観光施設の整備も進めたいところである。

都市再生整備計画の目標を達成するうえで必要な誘導施設の考え方
 本市の桑名市公共施設等総合管理計画及び立地適正化計画の通り

都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等

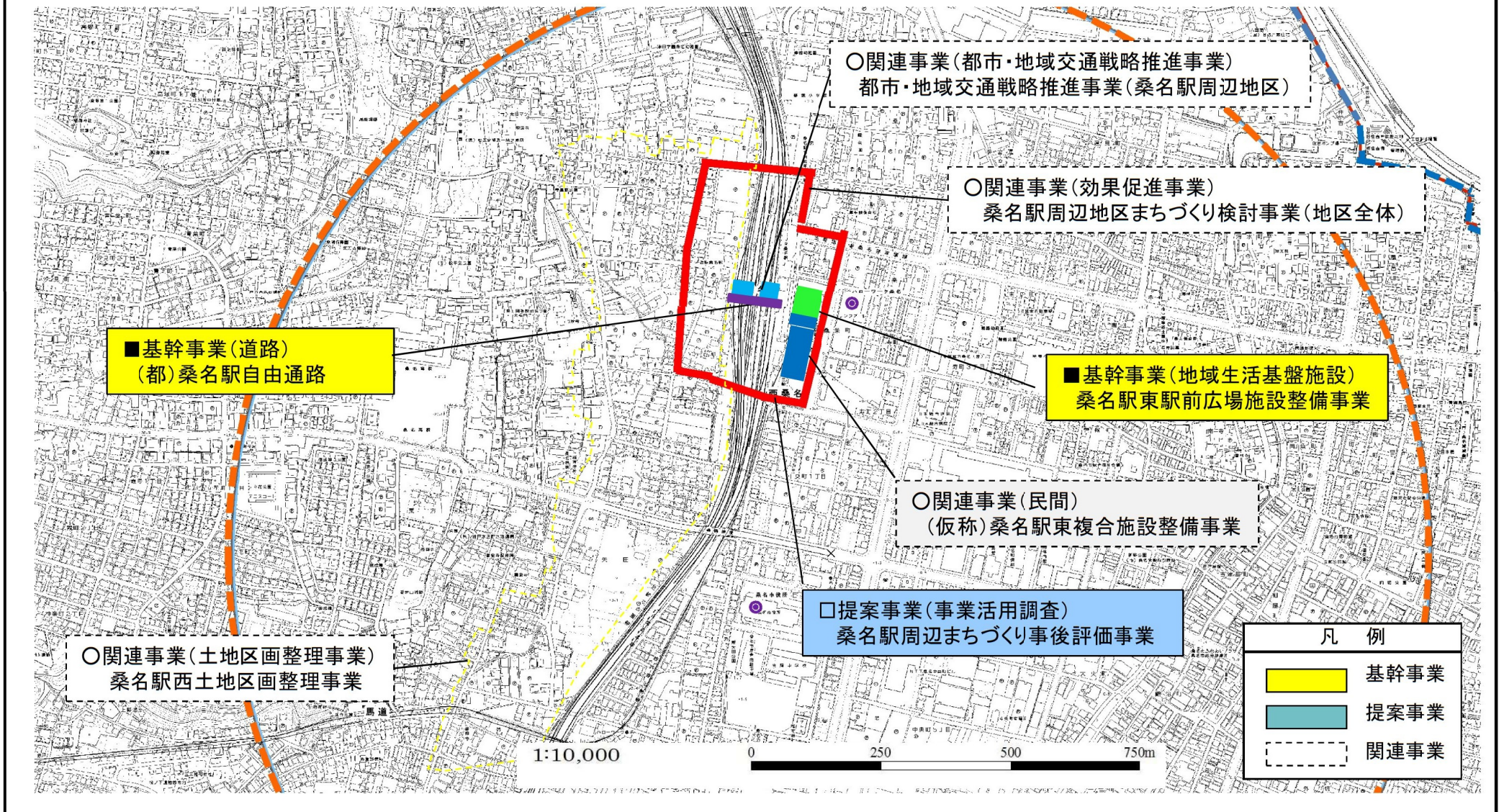
都市・地域交通戦略推進事業(桑名駅周辺地区)
 …桑名駅の整備を東西の駅前広場の整備、桑名駅自由通路整備を行うことにより東西分断化の解消をするとともに、桑名駅の交通結節点としての機能強化を図り市民の利便性を向上を図る。
 桑名駅西土地区画整理事業
 …桑名駅西側において東西軸及び南北軸となる幹線・補助幹線道路と駅前広場の整備により、円滑な交通体系の確立を図り、良質な住空間の創出を図る。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
東駅前広場直近の定住人口	人	桑名駅東駅前広場直近の定住人口	桑名駅自由通路及び駅前広場の整備による中心市街地の魅力向上に伴う街なか居住の推進を評価する。	626	28	750	3
桑名駅周辺の活性化(にぎわい)度	%	桑名駅周辺の活性化(にぎわい)度	駅前広場の整備による駅周辺の活性化(にぎわい)度を評価する。	29.5	27	35.9	3
桑名駅東西における駅前広場間を歩行移動する時間の短縮	分	桑名駅東西駅前広場間における歩行者の移動時間の短縮	桑名駅自由通路整備による東西の駅前広場の移動時間を評価する。	10	27	3	3

桑名駅周辺地区(三重県桑名市) 整備方針概要図(都市構造再編集集中支援事業)

目標	歩いて暮らせるコンパクトで便利なまちづくりを育む	代表的な指標	東駅前広場直近の定住人口 (人)	626.0	(28年度)	→	750	(令和3年度)
	交通結節点の整備を進め東西地区の交流を図る		桑名駅周辺の活性化(にぎわい)度 (%)	29.5	(27年度)	→	35.9	(令和3年度)
	公共施設等を再配置し、快適なまちづくりを図る		桑名駅東駅前広場間における歩行者の移動時間の短縮 (分)	10.0	(27年度)	→	3.0	(令和3年度)



都市構造再編集集中支援事業事前評価シート

計画の名称: 桑名駅周辺地区 事業主体名: 桑名市

チェック欄

. 目標の妥当性	
都市再生基本方針との適合等	
1) まちづくりの目標が都市再生基本方針と適合している。	
2) 上位計画等と整合性が確保されている。	
地域の課題への対応	
1) 地域の課題を踏まえてまちづくりの目標が設定されている。	
2) まちづくりの必要性という観点から地区の位置づけが高い	
. 計画の効果・効率性	
目標と事業内容の整合性等	
1) 目標と指標・数値目標の整合性が確保されている。	
2) 指標・数値目標と事業内容の整合性が確保されている。	
3) 目標及び事業内容と計画区域との整合性が確保されている。	
4) 指標・数値目標が市民にとって分かりやすいものとなっている。	
5) 地域資源の活用はハードとソフトの連携等を図る計画である。	
事業の効果	
1) 十分な事業効果が確認されている。	
2) 事業連携等による相乗効果・波及効果が得られるものとなっている。	
. 計画の実現可能性	
地元の熱意	
1) まちづくりに向けた機運がある。	
2) 住民・民間事業者等と協力して計画を策定している。	
3) 継続的なまちづくりの展開が見込まれる。	
円滑な事業執行の環境	
1) 計画の具体性など、事業の熟度が高い。	
2) 交付期間中の計画管理(モニタリング)を実施する予定である。	
3) 計画について住民等との間で合意が形成されている。	